

センター

救命救急センター

センターの紹介

当院の救命救急センターは1978年10月に九州で2番目の救命救急センターとして開設されて以来、北九州地域の三次救急医療体制の中核施設としての役割を果たしてきました。

当センターは北九州市西部地域の2次、3次救急を担う救命救急センターであり1.救命救急医療、2.小児救急医療、3.災害支援医療を政策医療に掲げています。免震の大型屋上ヘリポートはヘリ搬送患者の受け入れ拠点として運用されています。また、病院敷地内には常設型救急ワークステーションができ、北九州地域の救急業務メディカルコントロール体制における中核施設として活動を行なっています。

センターの特徴・取組み等

■若手医師の研修体制

初期研修医は、救急科研修を通じて、平日時間帯は救命救急センター担当医の指導助言のもと、センターに救急搬送された内科、外科系患者の診療に携わっています。救急科領域専門研修プログラム(八幡病院エキスパート研修プログラム)に基づき、専攻医が救急領域研修を行っています。研修医、専攻医においては、初期対応患者が緊急手術となるような場合は、手術にも参加出来ます。また、専攻医は、病院前救護とメディカルコントロール体制を学ぶため、当院敷地内に設置されている救急ワークステーションにおいて消防救急車の医師同乗指導に参加します。

■救急救命士の実習体制

当救命救急センターは、北九州地域の救急救命士に対する再研修、就業前実習、薬剤認定救命士実習、救命救急九州研修所の病院実習など、年間90名以上の実習生を常時受け入れています。また、医師による診断内容の解説、救急外来・一般病棟業務、手術室業務の見学実習、臨床検査技師課、放射線技師課での研修など、搬送傷病者の病院収容後の診療経過が広く学べる体制となっています。

■常設型救急ワークステーション活動

救急ワークステーション(WS)は、2008年6月に当院敷地内に開設されました。平日日勤帯は病院前医療、メディカルコントロール体制を熟知した当院のMC医師が常駐し、救急隊への同乗指導を行っています。

スタッフ紹介



救命救急センター長
統括部長
きどがわ ひでお
木戸川 秀生



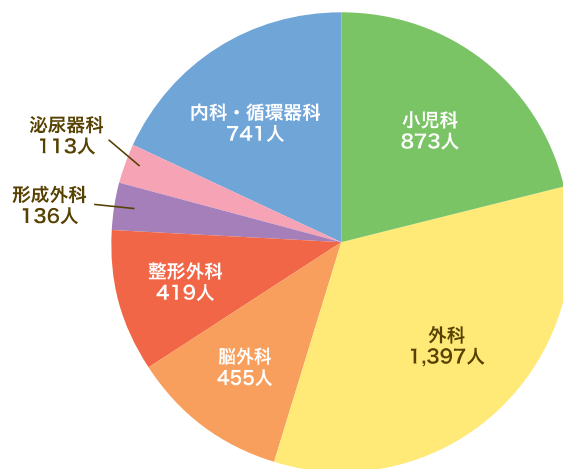
救急科主任部長
呼吸器外科主任部長
いのうえ まさお
井上 征雄



救急科
おかもと けんじ
岡本 健司

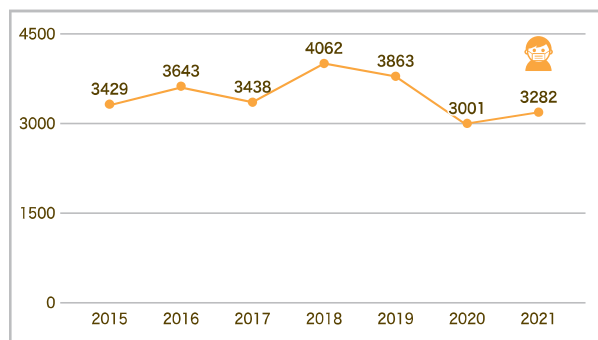
救命救急センター 診療実績

救命救急センター受診科内訳(2021年)

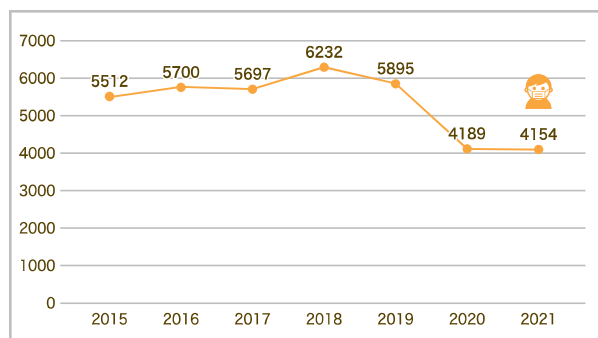


※小児救急ワークイン20,011人除く

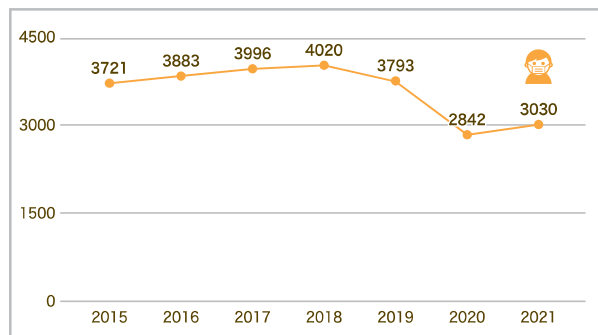
年間救急車搬入件数



成人年間救命救急センター受診者数



年間救命救急センター入院者数



小児救急センター

センターの紹介

夜間・休日、病気・怪我を問わず子どもの診療を行っております。初期診療・対応を当センターが行い、必要に応じて各科への橋渡し役も担います。小児の集中治療室(PICU)にて重篤な子どもの管理や他院で治療が必要な場合の救急車やヘリでの搬送にも携わります。

また、院内の活動のみならず院外での教育活動や災害などにも関わっています。

センターの特徴・取組み等

受付順による診療ではなく、看護師により緊急度・重症度を判断するトリアージを行っているため診療の順序が前後する場合があります。また、COVID-19感染症のような3密を回避する必要がある病気が突発的に発生した場合に対応できるようにするため、待合室への入室制限、待合室での距離確保や病気・怪我の種類による待ち合い場所の変更など対応を行っている場合があります。

受付の段階でCOVID-19感染症が疑われる場合は、小児科外来での診療は行わず専用の診療場所へ誘導させていただきます。

病気・怪我を問わず診療しておりますので、子どもであれば当センターにて対応しておりますので、紹介診療科に迷う場合は当センターにご紹介下さい。

令和3年度 小児救急センター 診療実績

外来受診者数	41,253人
夜間・休日受診者数	20,326人
入院受診者数	3,309人
夜間・休日入院者数	1,247人
救急車台数	932台
PICU入室患者数	115人

スタッフ紹介



小児救急センター長
小児科部長

にしま かずたか

西山 和孝

消化器・肝臓病センター

センターの紹介

～消化器疾患・肝臓疾患の専門医・薬剤師・看護師が連携して診療します～

消化器・肝臓病センターは2011年11月に各種消化器疾患・肝臓病を総合的に、専門的に、かつ先進的に医療を行うため開設されました。胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆嚢癌、膵臓癌、胆管癌等の悪性腫瘍に加えて、胃・十二指腸潰瘍、胆石症、ウイルス肝炎、肝硬変、脾腫、食道静脈瘤、脾炎、胃・十二指腸逆流症、大腸ポリープ、大腸憩室症等の良性腫瘍に対して消化器内科、消化器外科、肝臓外科、胆道外科、膵臓外科、内視鏡外科、放射線科の各診療科の密で機動的、横断的な連携により、高度な診療体制を構築するとともに、がん薬物療法認定薬剤師や看護師等とともにチームワーク良く診療を行っています。

センターの特徴・取組み等

救命救急センターと密な連絡をとり、腹膜炎、急性胆管炎、急性胆嚢炎、急性膵炎、急性腸炎等の急性腹症、吐血、下血、腹部外傷なども消化器の専門性を活かしながら、診療を行っております。

開設後すでに10年経過しましたが、手術件数、内視鏡件数、癌化学療法件数、緊急入院件数等すべて順調に増加しており、地域の皆様に役に立つ消化器疾患、肝臓疾患の専門センターとして今後とも機能していく予定です。

さらに、新病院移転後の2018年12月からは、西日本最大の広さと機能を持つ血管造影とCT撮影を備えた手術室(ハイブリッドオペレーションルーム)を新設し、出血疾患や外傷に対応するとともに、塞栓手術やCT併用の腫瘍焼灼術なども症例を伸ばしています。

取り扱う主な疾患

～診療の3本柱～

- 放射線専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医、消化器外科専門医による検査・診断
- 消化器内視鏡専門医、消化器がん外科治療認定医、消化器外科専門医、肝胆膵外科高度技能指導医、内視鏡外科学会技術認定医等による内視鏡治療、腹部各領域のがん手術、腹腔鏡手術、放射線専門医が行うカテーテル治療
- がん化学療法認定医、がん治療認定医(教育医)、消化器病専門医、肝臓病専門医、がん薬物療法認定薬剤師や看護師が共同で行う、がん化学療法、分子標的治療、肝炎インターフェロン治療、肝炎抗ウイルス療法(インターフェロンフリー療法)等の薬物治療ワークステーションが参加し、週間および月間救急患者動向(救急入院患者数、消防救急車受入件数・応需率、CPA事案、ドクターカー出動事案など)を分析・報告しています。

スタッフ紹介



院長
消化器・肝臓病名誉センター長
おかもと こうじ
岡本 好司



消化器外科主任部長
消化器・肝臓病センター長
のぐち じゅんや
野口 純也



統括部長
救命救急センター長
きどがわ ひでお
木戸川 秀生



外科主任部長
やまよし たかとも
山吉 隆友



外科部長
うえはら としひと
上原 智仁



外科部長
またよし のぶたか
又吉 信貴



外科部長
おかもと たかし
沖本 隆司



外科部長
おおつば かずひろ
大坪 一浩



外科
こんの たけし
金野 剛

災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター

センターの紹介

外傷やその他の形態異常によって、患者さんはQOL(クオリティ オブ ライフ、生活の質)を損なわれることがあり、身体の状態におよんだ変化によって患者さん自身には様々なストレスを生じることになります。

「外傷・形態修復・治療センター」では、先天的な形態異常や後天的な外傷・手術後の変形などに対し、チームとして機能的・整容的な再建を行うことで患者さんのQOL回復を目指します。

センターの特徴・取組み等

事故災害等で発生する外傷に対して、主に救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターが24時間体制で窓口となり、当センターの関連各科が滞ることなく連携し、初期から回復期まで専門的な治療を繋げて行くことができます。

災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全などの集学的治療も担っています。

機能的・整容的な再建によるQOL回復、ボディーイメージ変容に対する外科的アプローチ

重症外傷に対する救命と機能回復、ショック、臓器不全に対する集学的治療アプローチ

先天性形態異常

- 口唇裂 ●口蓋裂 ●外鼻変形 ●多指症 ●合指症 ●小耳症
- 先天性眼瞼下垂 ●母斑 ●血管腫 ●臍ヘルニア

後天性形態異常

- 手の外傷(切断、組織欠損、腱・神経・血管損傷)
- 顔面外傷(皮膚軟部組織・骨) ●熱傷・皮膚軟部組織損傷

四肢・体幹外傷

- 多発外傷 ●胸部 ●胸部外傷 ●骨盤 ●四肢 ●頭部外傷
- インターベンション ●ダメージコントロールサージェリー

災害外傷外科

形成外科

整形外科

外科

脳神経外科

小児科

放射線科

麻酔科

○救命救急センター

○災害医療研修センター

○消化器・肝臓病センター

○小児救急・小児総合医療センター

○救急ワークステーション

バックアップ診療科

耳鼻科

眼科

内科

泌尿器科

救急科

循環器内科

皮膚科

バックアップ部門

○看護部

○診療支援部

○事務部

※災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全など集学的治療を担う

スタッフ紹介



災害外傷外科、
外傷・形態修復・治療センター長
統括部長

たさき ゆきひろ
田崎 幸博

診療支援部

薬剤課

部門の紹介

薬剤課は、チーム医療の一員として薬学的視点から医薬品の有効性・安全性を確保することを基本姿勢としています。救急医療に対応するため24時間の勤務体制です。

安全な薬物療法のため、患者さんに随時服薬指導を行ないます。入院中は持参薬・薬物相互作用・薬物アレルギー・検査値のチェックや副作用の確認をし、医師に処方提案も行ないます。がん治療では、抗がん剤の無菌調製やレジメン管理・情報提供・副作用防止の提案等を行ない安全な化学療法を提供しています。また、病棟や外来の適正な薬剤管理や病院全体の感染管理・医療安全にも携わっています。

主な業務内容

【調剤業務】

処方監査をして調剤します。

【外来薬剤指導】

各種デバイス等の指導をします。

【製剤業務】

院内製剤を調製します。

【医薬品情報業務】

最新の医薬品情報を整理し、必要な情報を迅速に提供します。月1回「DIニュース」の発行をします。

【病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務】

病棟の専任薬剤師が入院患者の持参薬鑑別、薬歴管理、患者への薬剤の説明、自覚症状や検査値をもとに副作用の確認をします。また、病棟の定数配置薬や救急カートの管理にも関与しています。

【抗がん剤等の無菌調製】

レジメンに基づき、各患者の状態に応じた抗がん剤の無菌調製を行ないます。

【治療薬物モニタリング】

適正な薬物療法のため血中濃度から投与設計・モニタリングを行ないます。

特徴・強み

当院薬剤課の特徴としては、小児の薬物療法に強いということがあげられます。全国でも数少ない小児薬物療法認定薬剤師も在籍しています。患児だけでなく、保護者に対しても医薬品に関する指導や助言・教育を行うことのできる認定です。

小児の薬物療法は、がん化学療法の管理や成長ホルモンのデバイス説明、糖尿病指導、臨床試験への参加など多岐にわたり、薬剤指導には成人とは全く違う難しさがあります。なかでも小児のがん化学療法を専門的に行える施設は全国的にも少なく、当院の特徴のひとつと言えます。薬剤師ががん化学療法に密接に関わることで患児やご家族のQOLがあがり、レジメン遂行の達成率もあがると思っています。

また、小児だけでなく成人の患者さまにも退院後の薬物療法が安全に行えるように八幡薬剤師会とも密接に連携をとっています。

令和3年度 業務実績

名 称	件 数
処方箋枚数(1日平均) 入院	150.0枚
処方箋枚数(1日平均) 外来	1.1枚
注射処方箋件数(1日平均)	656.5件
抗がん剤調製件数	938件
がん患者管理指導料3算定件数	46件
病棟薬剤業務加算1算定件数	4,694件
薬剤管理指導実施件数	10,957件
TDM解析業務件数	92件
吸入指導件数	293件
インスリン・SMBG指導件数	114件
成長ホルモン・デバイス指導件数	3件
骨粗鬆症デバイス指導件数	8件
入院支援センター面談件数	267件

資格認定者数

専門資格名	人 数
日本医療薬学会認定医療薬学専門薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	9名
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師	4名
日病薬病院薬学認定薬剤師	2名
がん薬物療法認定薬剤師	2名
外来がん治療認定薬剤師	1名
認定実務実習指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	2名
福岡県・糖尿病療養指導士(LCDE)	2名
NST専門療法士	2名
小児薬物療法認定薬剤師	1名
日本災害医療薬剤師学会災害医療支援薬剤師	1名
救急認定薬剤師	1名
肝炎治療コーディネーター	7名
日本医療安全学会高度医療安全推進者	1名
日本災害医学会 災害医療認定薬剤師	1名
日本医療安全学会高度医薬品安全推進者	1名
日本救急医療医学会ICLS	3名
抗菌化学療法認定薬剤師	1名
心不全療養指導士	1名

スタッフ紹介



薬剤課 課長

むらもと まゆみ
村本 眞由美

臨床検査技術課

部門の紹介

臨床検査技術課は男性8名、女性21名の臨床検査技師と、受付担当の女性3名で業務にあたっています。20～30歳代が半数を占め、定年退職後再任用として頑張っている職員もいます。検査を通して病院機能に貢献できるよう、誠実に真心を込めて検査に取り組み、皆様に安心・信頼される臨床検査技術課を目指し、全スタッフで日々努力しています。また、臨床検査技師を目指す学生の臨地実習を受け入れ、臨床検査技師育成にも貢献しています。

主な業務内容

- 【一般検査】尿・便・髄液・体腔液等の一般スクリーニング・ウイルス抗原迅速検査
- 【病理学的検査】組織検査・細胞検査・病理解剖
- 【血液学的検査】血球数算定・分類、凝固線溶系検査
- 【生化学的検査】血液化学検査・内分泌学的検査・腫瘍マーカー・感染症免疫学的検査
- 【生理機能検査】超音波検査・心電図検査・聴力検査・脳波検査・肺機能検査
- 【輸血検査】血液型・不規則性抗体スクリーニング検査・交差適合試験
- 【細菌学的検査】一般細菌培養・同定・感受性、抗酸菌培養・同定、遺伝子検査

特徴・強み

検体検査では、患者様から採取された様々な検体を対象として、正確なデータを迅速に患者様のもとにお届けできるよう検査に臨み、質の高い検査を維持できるよう努力しています。また、生理機能検査では、患者様と直接接する検査なので、患者様に対して十分な説明のもと安心して検査を受けていただけるよう心がけています。

当院は新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定も受けており、ルーチン帯は遺伝子検査法の一つであるTRC法を行い、夜間帯はCPA患者や緊急OP等の対応のため、RT-PCR法を行い迅速に結果報告しています。

病院の掲げる政策医療である救命救急医療と小児救急医療にも対応すべく夜勤者を2名配置し、24時間365日検査ができる体制をとっています。また、災害支援医療に関しては、災害派遣医療チーム(DMAT)にも2名が参加しており、定期的な訓練等も行っています。

スタッフ紹介



臨床検査技術課長

あらき たけし
荒木 猛

令和3年度 業務実績

【検査部門別件数】

	一般検査	生化学検査	血液検査	生理検査	病理検査	細菌検査	時間外検査	総件数
4月	12,847	38,984	16,565	837	890	1,838	17,813	89,774
5月	11,993	34,854	15,237	738	926	1,950	25,019	90,717
6月	13,730	38,341	16,296	857	1,015	1,901	16,461	88,601
7月	13,938	40,157	16,503	865	1,082	2,081	19,945	94,571
8月	13,773	40,889	17,489	914	1,016	1,780	18,007	93,868
9月	12,781	39,002	15,854	837	997	1,766	14,097	85,334
10月	12,572	35,113	14,251	773	985	1,665	14,460	79,819
11月	13,361	36,130	14,674	866	979	1,874	16,189	84,073
12月	14,238	40,378	16,580	919	942	1,971	18,086	93,114
1月	14,121	40,908	16,530	877	1,122	1,912	20,913	96,383
2月	12,761	39,559	17,169	884	827	2,060	20,278	93,538
3月	13,953	44,511	18,108	1,018	1,060	1,815	15,057	95,522
合計	160,068	468,826	195,256	10,385	11,841	22,613	216,325	1,085,314
月平均	13,339	39,069	16,271	865	987	1,884	18,027	90,443

【外来・入院別件数】

	一般検査		生化学検査		血液検査		生理検査		細菌検査	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
4月	10,159	2,688	24,781	14,203	9,452	7,113	643	194	1,224	614
5月	9,266	2,727	22,071	12,783	8,438	6,799	553	185	1,280	673
6月	10,698	3,032	26,140	12,201	9,967	6,329	688	169	1,230	671
7月	11,451	2,487	28,345	11,812	10,700	5,803	687	178	1,452	629
8月	11,083	2,690	26,427	14,462	10,112	7,377	735	179	1,249	531
9月	10,886	1,895	27,130	11,872	9,866	5,988	688	149	1,134	632
10月	10,197	2,375	24,717	10,396	9,315	4,936	612	161	1,183	482
11月	10,198	3,163	24,662	14,468	9,203	5,471	667	199	1,248	626
12月	11,194	3,044	26,914	13,464	10,120	6,460	740	179	1,152	819
1月	10,698	3,423	26,132	14,776	9,630	6,900	654	223	1,106	806
2月	9,889	2,872	24,094	15,454	9,270	7,899	648	236	1,155	905
3月	11,979	1,974	30,478	14,073	11,317	6,791	834	184	942	873
合計	127,698	32,370	311,891	159,964	117,390	77,866	8,149	2,236	14,355	8,261
月平均	10,642	2,698	25,991	13,330	9,783	6,489	679	186	1,196	688

資格認定者数

資格名	人数
細胞検査士	5名
認定臨床微生物検査技師	1名
認定超音波検査士	7名
感染制御認定臨床微生物検査技師	1名
認定輸血検査士	1名
健康食品管理士	1名
有機溶媒作業主任者	2名
特定病原体等の運搬責任者	2名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1名
福岡県糖尿病療養指導士	1名

放射線技術課

部門の紹介

放射線技術課は診療放射線技師22名、24時間体制で放射線業務を行っています。主な検査内容はX線撮影、CT検査、MRI検査、RI検査、透視検査、血管造影検査、心血管造影検査です。患者の負担軽減を考慮しつつ質の高い検査を行い、診療の支援が出来るよう努めています。

機器および運用を整備し、高度医療機器の共同利用のお役に立てると考えております。地域医療機関からの検査依頼をお願いいたします。

主な業務内容

- X線撮影(4室)：一般撮影、デンタル、マンモグラフィー
- 骨密度測定(1台)
- CT検査(256列：1台、64列：1台)
- MRI検査(1.5テスラ：1台)
- RI検査(1台)
- 透視検査(2台)
- 血管造影検査(パイプライン血管造影装置と64列CT装置のハイブリッド手術室：1室)
- 心血管造影検査(1台)

特徴・強み

放射線技術課では、各部門にチーフ担当者を配置し、特にCT検査、MRI検査部門には専従の技師を配置しており、質の高い検査を心掛けています。学会や研修に参加し、知識や技術の向上に励んでいます。

また、医療放射線被ばくの管理は大きな役割だと考えており、診療に適した検査を行いつつ、放射線被ばくを低減するよう取り組んでまいりました。その結果、日本診療放射線技師会により2019年2月に「医療被ばく低減施設」に認定されました。福岡県では7番目、北九州市では2番目の認定となり、北九州市立八幡病院の努力の成果だと自負しております。

地域医療、救急医療に貢献できるよう、すべての救急検査に対応できる診療放射線技師を育成し、24時間体制で対応しています。患者とスタッフの安全を第一に考え、感染対策を徹底し、診療の一助となるよう努めてまいります。

令和3年度業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	2322	2397	2217	2386	2289	1997	1971	2051	2265	2252	2338	2383	26868
透視	140	122	130	147	141	138	143	142	168	174	154	178	1777
CT	727	668	675	658	695	681	668	715	770	867	866	838	8828
MRI	204	180	247	230	229	229	274	247	266	240	238	266	2850
RI	14	6	16	19	15	14	18	12	14	16	17	21	182
血管造影	2	5	2	5	1	7	1	1	3	0	3	0	30
心カテ	3	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	9
MMG	5	3	7	7	4	5	8	12	8	8	8	9	84
骨塩	7	10	13	17	16	17	19	11	25	13	12	17	177

資格認定者数

資格名	人数
第1種放射線取扱主任者	2名
X線CT認定技師	4名
Ai認定	2名
磁気共鳴専門技術者	2名
画像等手術支援認定	2名
検診マンモグラフィー撮影認定	1名
放射線機器管理士	1名
医療情報技師	1名

スタッフ紹介



放射線技術課長

くればやし ひとし
樽林 斉

リハビリテーション技術課

部門の紹介

当院は(1)救命救急医療(救命救急センター)、(2)小児救急医療(小児救急・小児総合医療センター)、(3)災害支援医療(災害医療研修センター)を政策医療に上げています。

リハビリテーション技術課では主治医の指示により、主に入院患者さんの発症直後からの急性期・早期リハビリテーションをリスク管理に注意しながら実施し、患者さんの一日も早い社会復帰を目指しております。

スタッフ数:医師1名、理学療法士10名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、受付2名

主な業務内容

○リハビリ診療:疾患別リハビリテーション

(運動器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、廃用症候群)、がんのリハビリテーション、摂食・嚥下療法など

○ICU、PICUなどへの早期離床・リハビリテーション介入。

○チーム医療への参加(カンファレンス、回診など)

○各種委員会への参加

特徴・強み

当院は急性期の地域支援病院で一般診療、小児科など様々な疾患の患者さんを受け入れている特徴があります。

2019年12月の新病院移転より、手術室が新しくなり、整形外科疾患の人工関節手術や関節内の手術などが行われるようになりました。医師、看護師らと共にチームアプローチを行い、術前・術後のリハビリテーションを積極的に行っております。術後の成績も良く、患者さんのQOL向上につなげていけるよう頑張っております。

また2020年新型コロナウイルスの蔓延により当院は重点医療機関となり専用病床を設置し、コロナ患者さんのリハビリテーションも専任スタッフが対応しております。

今年度からはICUに加えPICU等においても早期離床・リハビリテーション加算が算定できるようになり、積極的に加算点数を上げていきたいと思っています。

また一部の病棟において専任スタッフを配置して連携強化を図る取り組みを開始しています。

スタッフ紹介

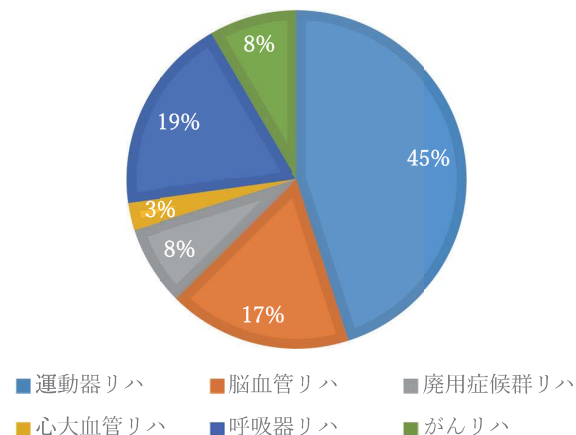


リハビリテーション技術課
理学療法士長

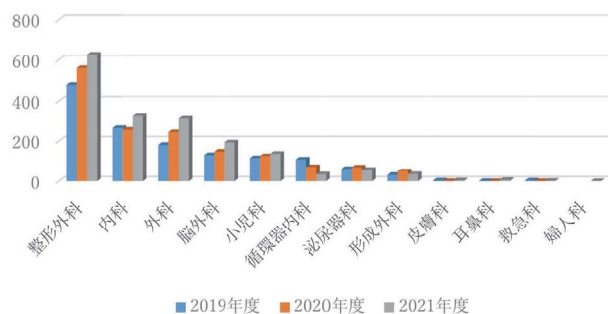
すざき しょうじ
須崎 省二

令和3年度 業務実績

■ 2021年度



■ 診療科別新患数



資格認定者数

資格名	資格者数		
	PT	OT	ST
3学会合同呼吸療法認定士	5名	2名	
心臓リハビリテーション指導士	1名		
がんのリハビリテーション研修終了	7名	3名	1名
介護支援専門員(ケアマネージャー)	3名	1名	
認定理学療法士(運動器)	1名		
A-ONE認定評価者		1名	
失語症者向け意思疎通支援者			1名
福祉住環境コーディネーター2級		2名	
骨粗しょう症リエゾンマネージャー		2名	
社会福祉士		2名	

栄養管理課

部門の紹介

医療の一環として、入院患者さんの栄養管理を行い、安全でおいしい食事の提供を行うと共に、入院及び外来の患者さんに病態に応じた食事について指導を行っています。

食事の提供は、業務の一部を委託（エームサービス株式会社）しています。

職員は、病院管理栄養士4名、委託会社管理栄養士5名、委託会社栄養士4名、委託会社調理師4名、委託会社事務1名、委託会社調理員27名（パート含む）の体制です。

主な業務内容

○食事の提供

一人ひとりの病態や年齢、性別に合わせた食事の提供に努めています。食欲の無い患者さんには聞き取りを行い、主食の形態や量の変更のほか、栄養補助食品などの提供を行い少しでも食べていただけるように心がけています。

○栄養指導

特徴・強み

より多くの患者さんに、ご自分の口で食べていただけるように、言語聴覚士、摂食嚥下障害看護認定看護師とともに嚥下食の見直しに取り組み、学会基準に沿った嚥下食の提供に努めています。

食物アレルギーの有る患者さんには、安心して食べていただけるように、個別に献立を作成し提供を行っています。

また、利用できる食種の制限はありますが、患者さん自身が選んで食べていただけるように、年末年始を除く毎日、朝食と夕食に選択食を行っています。

その他には、他職種との連携によるチーム医療にも積極的に取り組んでいます。栄養サポートチーム、褥瘡ラウンドや脳外科、小児科カンファレンス、回診などに参加し、患者さんの早期回復に取り組んでいます。

これからも一人ひとりの状態に適した食事の提供に努めてまいります。

令和3年度 業務実績

入院・外来患者栄養指導件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
50	44	57	51	68	74	71	74	71	65	89	79	793

資格認定者数

資格名	人数
NST専門療法士	1名
福岡県糖尿病療法指導士	1名

スタッフ紹介



栄養管理課 係長

ひあさ みちよ
日浅 実千代

臨床工学課

部門の紹介

臨床工学課には、臨床工学技士6名が在籍しています。臨床工学技士は現在の医療に不可欠な医療機器に関する専門職であり、チーム医療の一員として診療技術支援および医療機器管理業務を行っています。医療の進歩に付随して医療機器もより複雑化し専門性も増す中、それらを使用した検査・治療が安全かつ効果的に行われるような基盤整備を当課が担っています。

主な業務内容

- 医療機器管理業務
- 心臓カテーテル検査室業務
- 造血幹細胞採取
- 手術室業務
- 人工呼吸器関連業務
- チーム医療活動
- 内視鏡室業務
- 各種血液浄化療法
- 医療機器安全管理責任者業務

特徴・強み

手術・検査・治療・療養の各場面で使用する医療機器の導入時評価や導入後の使用方法の周知に始まり、保守点検やトラブル対応、修理窓口、廃棄評価までを一手に担い、医療機器安全のマネジメントを行っています。機器運用の効率化によるコスト削減も当課の重要な役割です。

また、当院は救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターおよび消化器・肝臓病センターを有し、成人・小児・急性期・慢性期を問わず多種多様な病態に対処しています。当課では手術室、内視鏡室、心臓カテーテル検査室、重症系病棟、一般病棟において医療機器に関連する様々な診療技術支援を行う事でその体制を支えています。

令和3年度業務実績

業 務 内 容	実 績 数
医療機器使用後点検	32,215件
医療機器定期点検	872件
医療機器修理	399件
医療機器トラブル対応	238件
手術室関連業務	503件
内視鏡関連業務	1,040件
血液浄化関連業務	41件
人工呼吸器関連業務	681件
その他業務(各種委員会活動/医療安全ラウンド/医療機器研修会)	
医療機器安全管理責任者業務	

資格認定者数

専 門 資 格 名	資格者数
消化器内視鏡技師	1名
周術期管理チーム臨床工学技士	1名
3学会合同呼吸療法認定士	2名
透析技術認定士	1名
体外循環技術認定士	1名
臨床ME専門認定士	1名
第2種ME技術者	6名

スタッフ紹介



臨床工学技士長

いこう もとひろ
伊香 元裕

看護部

看護部 ①

看護部長ご挨拶

看護部は病院・看護部理念のもと「患者さん中心の視点」と「チーム医療の推進」を重要視し、日々の看護を実践しています。今年度は、「今こそ！力を合わせよう！」をキーワードに、3年目を迎えたコロナ禍を乗り切っていきたいと考えています。また、「クリニカルラダー」を導入し大きく教育体制を強化しました。その中で、看護師一人一人が看護師としての役割と責務を考え、やりがいと誇りを持ち、組織の中で成長出来る事を目指しています。

そして今後も、「市民のまん中」で地域になくてはならない病院として、成長をしていけるよう努力をしていきたいと思っています。

【令和4年度 看護部目標】

- 1) 安全で質の高い、良質な看護サービスの提供
- 2) 生き生きと働き続けられる職場環境作り
- 3) 看護の専門性を活かした病院経営への積極的な参加

看護部の理念

「救急医療の中核としての役割のもとに、生命の尊厳・人間性を尊重した、こころ温かい看護を提供します。」

看護部の方針

八幡病院看護部は、救急医療の役割を担う病院としてチーム医療を推進し、円滑・効率的に協働するために研鑽を図り専門職として、倫理にもとづいた科学的かつ主体性のある看護を目指しています。

【看護部方針】

- 1) 笑顔で相手の立場に立った看護を提供します
- 2) 自己研鑽に努め知識・技術の向上を図ります
- 3) 事故防止と感染予防に努め、安全な看護を提供します
- 4) 快適な療養環境を整え、患者サービスの向上を図ります
- 5) 地域との連携を図り、継続看護に努めます
- 6) 病院の健全経営に参画します

スタッフ紹介



看護部長

よくに さわこ
吉國 佐和子



看護部 ②

看護の教育体制

日本看護協会のJNAラダーを基に「クリニカルラダー」を導入し、質の高い看護の提供ができるように、教育体制を強化しました。

【教育理念】

北九州市立八幡病院の看護部の理念に基づき、専門職業人として時代の変化に対応でき、市民に信頼される質の高い看護が提供できる看護師を育成する。

【教育目的】

北九州市立八幡病院看護部の一員として責務を遂行するために必要な看護実践能力の獲得・維持向上および看護職の学習に対する要望を支援することを目的とする。

新卒看護師教育スケジュール

～「自立したナース」を育てます～

新人教育では厚生労働省の新人看護職員研修ガイドラインに準じた教育プログラムと標準的な新卒新人教育スケジュールパスを活用し研修を実施しています。

【新人研修の様子】



認定看護師の紹介

当院では、より質の高い看護の提供ができるよう認定看護師の資格取得にも力を入れています。委員会活動や医療のメンバーとして院内を組織横断的に活動し、看護ケアの質向上・チーム医療の推進に貢献しています。

現在、小児専門看護師1名と特定行為研修修了者1名を含め11分野17名の認定看護師が活動しています。

【専門・認定看護師紹介】

小児看護専門看護師	1名	牛ノ浜 奈央
小児救急看護	3名	梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子
脳卒中リハビリ	1名	岩永 妙
救急看護	2名	井筒 隆博、角田 直也
皮膚・排泄ケア	2名	穴井 恵美、福永 晶子
感染管理	2名	中川 祐子、山田 友美
がん化学療法	1名	福永 聡
集中ケア	1名	川崎 久美子
クリティカルケア	1名	山下 亮
摂食・嚥下障害	2名	最所 麻奈美、日畑 沙也加
認知症	1名	塩田 輝美
慢性心不全	1名	木原 朋香

地域医療連携室

地域医療連携室 ①

地域医療連携室のご紹介

地域医療連携室では、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活ができるよう地域の医療機関・福祉施設などの関係機関と緊密に連携し、良質な医療の提供が行えるよう調整、連絡を行っています。また、地域医療連携室内に「前方連携」「後方連携」「患者支援」の3部門を設置しており、各担当者が迅速に「連携」や「支援」が行えるように体制を整えています。

高齢化が進む中で医療相談のニーズも高まっています。当院では医療相談室を設置し療養上のお悩み、療養生活上の妨げになる問題（経済的なこと、受診に関すること、療養環境等）について、専門的にご相談に応じる体制を整えています。

地域医療連携室管理職員のご挨拶

平素より大変お世話になっております。この4月から前任の岡本に変わって地域医療連携室長を拝命いたしました木戸川秀生と申します。平成7年に旧八幡病院に着任して以来、外科／救急／消化器内視鏡診療に注力してまいりました。地域医療連携の担当は初めてですが、精一杯頑張りたいと存じますので、これから何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナ蔓延から2年の月日が経過しました。この混乱の中で地域医療への貢献が十分にできなかったこともありました。また循環器科医師をはじめとした内科医師不足により内因性疾患への対応も期待に応えられませんでした。4月からは循環器科医師、呼吸器内科医師が増員となり、少しずつではありますが従来への体制へ戻す努力をしております。地域医療機関の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携 室長
きどがわ ひでお
木戸川 秀生

平素より地域医療連携室に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この4月に地域医療連携室に1年ぶりに戻ってまいりまして、前任の米澤に変わり地域医療連携推進担当課長を拝命いたしました大塚由美子と申します。

地域包括ケアシステム構築が求められる中、病院と地域のハブとしての重要な役割をもつ地域医療連携室の運営を精一杯努めてまいり所存でございます。また急性期医療を担う地域医療支援病院として地域の皆様に貢献できるよう「病診・病病連携」を積極的に進めてまいりたいと思っております。今後とも皆様方よりご指導とご支援の程よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携推進 担当課長
おおつか ゆみこ
大塚 由美子

地域医療連携室 ②

主な業務内容・担当職員のご紹介

前方連携

- 医療機関からの診察や高額医療機器
共同利用（CT・MRI など）予約受付
- 患者さんに関する情報提供依頼への対応
- 紹介・逆紹介など地域医療連携に関する
データ管理
- 連携医療機関の登録に関する業務
- 病院の広報・渉外に関する業務
- 救急紹介患者さんの受入れ調整



事務職
地域医療連携推進
担当主幹

いのうえ かつよし
井上 勝芳



事務職
地域医療連携推進
担当係長

おおば こうじ
大庭 光司



事務職
地域医療連携推進
担当係長

やまもと しんいち
山本 伸一



事務職
いしだ ともみ
石田 友美



事務職
やまだ りえ
山田 理恵



事務職
おおつか かずみ
大塚 和美

後方連携

- 転院に関するご相談・連絡調整
- 退院後の在宅医療・介護に関するご相談
- 退院後の施設入所に関するご相談



看護師
地域医療連携推進
担当係長

かなや みちよ
金屋 美千代



看護師
地域医療連携推進
担当係長

いわなが たえ
岩永 妙



看護師
かわはら えみこ

川原 恵美子



社会福祉士
やました ともこ
山下 智子



社会福祉士
とやま ようこ
外山 陽子



社会福祉士
のぐち かえ
野口 佳絵



社会福祉士
しばた まゆ
柴田 舞雪

患者支援

- 患者さんの状況に応じた各種医療費助成制度
の利用に関するご相談
- 患者さんやご家族が抱える社会的・心理的・経
済的な問題に関するご相談
- 予定入院患者さんに関する状況把握・不安的
要素の聞き取り・問題点の抽出などの対応
- 児童虐待ケースの状況把握・援助方針などの
進行管理・関係機関との連絡調整



看護師
地域医療連携推進
担当係長

かねだ ともこ
兼田 朋子



看護師・主査
うえだ けいこ
植田 啓子



看護師
ふしした みき
伏下 みき



看護師
いむら ときえ
伊村 ときえ



社会福祉士
ながら みちの
長柄 美千乃



看護師
よしひさ みきこ
吉久 美起子

地域医療連携室へのご用命

☎ フリーダイヤル: **0120-41-6565**

「在宅療養後方支援病院」のご案内

当院では診療所の先生方が在宅加療されている患者さん(原則として「在宅療養指導管理料」を算定されている患者さん)が、急性期医療を必要とする場合は、入院を含め24時間対応いたします。なお、やむをえず当院で入院加療が行えない場合は、当院から他の医療機関へのご紹介をいたします。

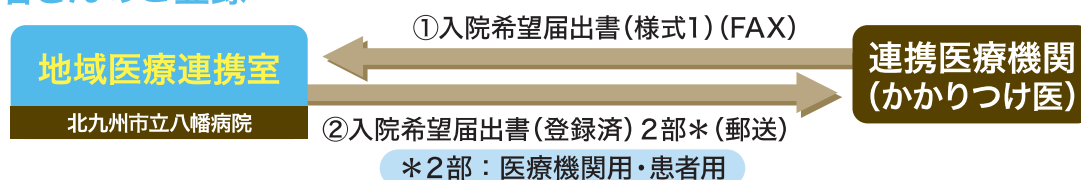
在宅療養後方支援の体制



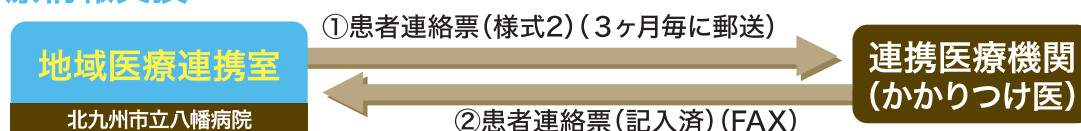
* 入院希望患者登録される際は、以下の点にご留意ください。

- 以下の在宅管理料を算定されている患者さんが対象になります。
在宅時医学総合管理料・特定施設入居時等医学管理料・在宅がん医療総合診療料
在宅療養指導管理料(在宅自己注射指導管理料を除く)を入院前月又は入院月に算定
- 1人の患者さんが複数病院の入院希望登録は行えません。
- 入院時に在宅患者緊急入院加算を算定します。(2,500点 入院時1回のみ)

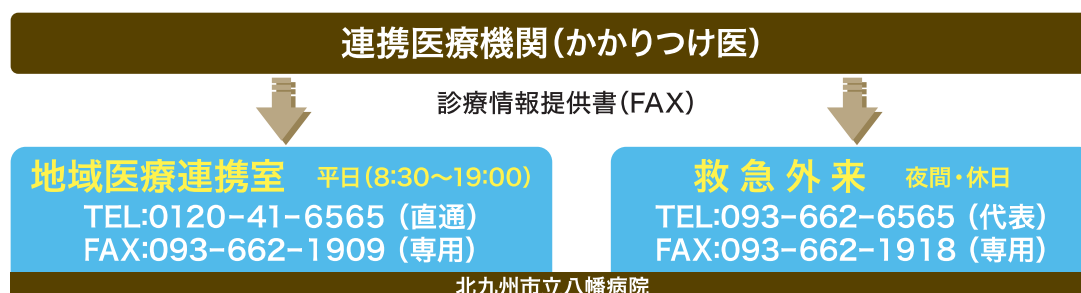
1. 患者さんのご登録



2. 診療情報交換



3. 診療のご依頼



お問い合わせ先: 北九州市立八幡病院 医療連携室 平日(8:30~17:00) TEL:093-662-0990(連携室直通)

病 院 概 要 ・ フロアー図

病院概要

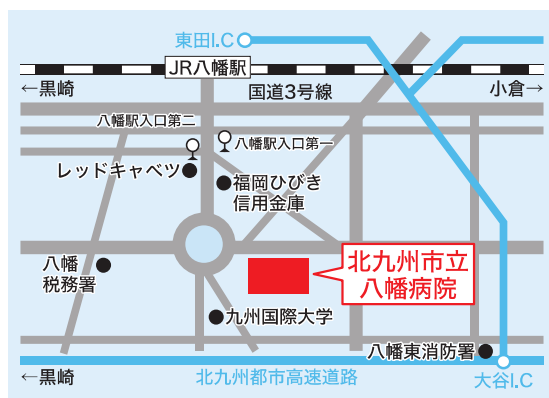
概要

名 称	北九州市立八幡病院	施 設 概 要	延床面積:約28,600㎡ 敷地面積:約24,000㎡
所 在 地	〒805-8534 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番2号	標 榜 診 療 科	内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、内視鏡外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、精神科、歯科、救急科、臨床検査科
電 話 番 号	T E L 093-662-6565(代表) F A X 093-662-1796	病 床 数	350床 (内訳) 一般病床:336床、ICU:6床、PICU:8床
開 設 年 月 日	昭和38年2月10日	職 員 数	712人(パート含む 令和4年4月1日現在)
院 長	岡本 好司		医師(歯科医師含む):94人 看護師(准看護師含む):401人
副 院 長	天本 正乃 / 岡部 聡 / 浦部 由利		看護補助者:22人 薬剤師:24人 診療放射線技師:22人
看 護 部 長	吉國 佐和子		臨床検査技師:29人 臨床工学技士:6人 歯科衛生士:1人
事 務 局 長	瀬戸口 誠		理学療法士:10人 作業療法士:5人 言語聴覚士:2人
開 設 者	地方独立行政法人 北九州市立病院機構		管理栄養士:5人 視能訓練士:1人 児童虐待相談専門官:1人
理 事 長	中西 洋一		社会福祉士:5人 保育士:8人 心理士:2人 子ども療養支援士:1人
構 造	地上7階(屋上にヘリポート) 鉄骨造(免震構造)		救急救命士:3人 診療情報管理士:4人 事務:66人

学会等施設認定

- ・日本呼吸器学会関連施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本内科学会教育関連病院
- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・日本外傷学会外傷専門医研修施設
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本胸部外科学会認定施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本整形外科学会研修施設
- ・日本小児科学会専門医研修施設
- ・日本小児血液・がん専門医研修施設
- ・日本小児総合医療施設協議会会員施設
- ・日本形成外科学会認定医研修施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会麻酔指導病院
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・認定臨床微生物検査技師制度研修施設
- ・日本消化器内視鏡学会JED Project参加施設
- ・日本心血管インターベンション学会研修関連施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・臨床研修指定病院
- ・NCD施設会員
- ・骨粗しょう症検診精密検査実施登録
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本プライマリケア学会認定研修施設

アクセス



JR鹿児島本線

八幡駅から徒歩9分

西鉄バス

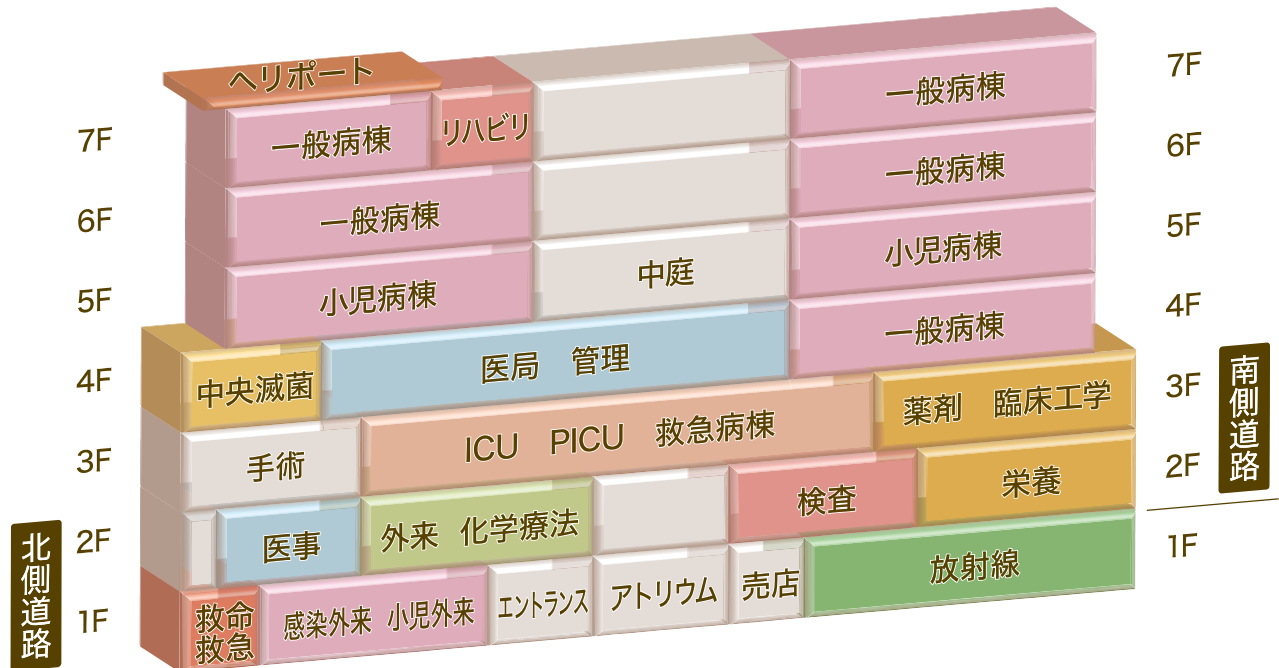
「市立八幡病院」病院敷地内
「八幡駅入口第一・第二」から徒歩6分

都市高速道路

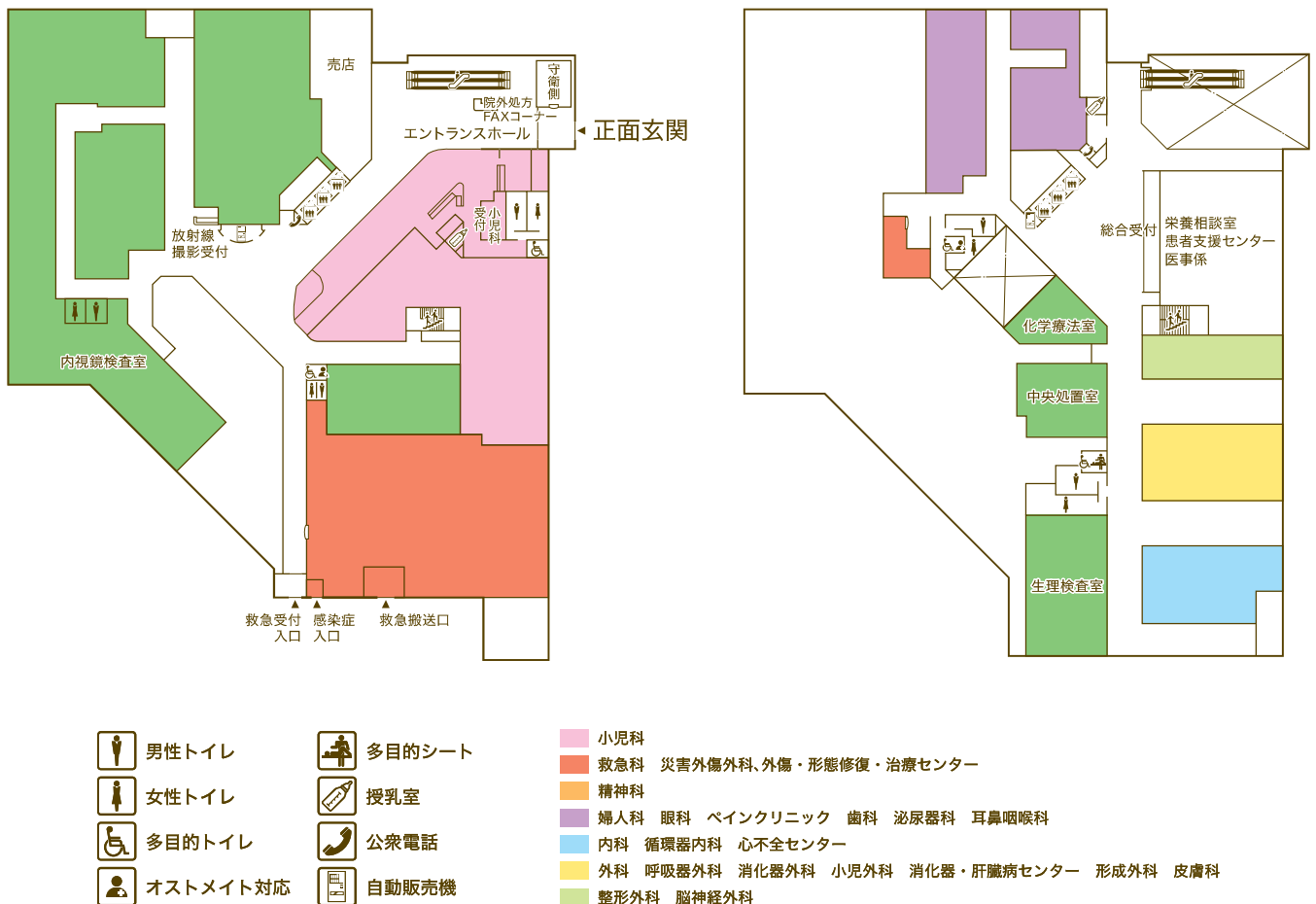
大谷インターから車で5分
東田インターから車で5分

フロアー図

■ 全面案内図



■ 外来案内図(1階～2階)



市民のまんなかに



地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立八幡病院

Facebook



Twitter

